

田中 聖子

京都女子大学大学院 博士前期課程

高齢社会において目指すべき都市構造の確立に関する研究

都市近郊に位置する既成市街地のうち、近年高齢化が進行し、まちの衰退が顕著である神戸市須磨区南部地域を対象に、都市空間構造を解析するスペースシンタクス理論により、街路の活動状況を把握し、現状の都市環境の関係からその有効性を検証した。その結果、居住地が活動性の低い周縁部に位置すること、活動の高さは道路や施設分布と影響し街路毎の特性をつくっている等、幾つかの相互関係を把握することができた。

また、都市環境と実際の人の活動との関係を把握することで、人々の活動に影響を与えると考えられる環境要因を抽出した。生活利便性の高い地域では、生活関連施設等の立地により、歩行者が都市構造とは異なる独自の経路を形成する可能性をもつ一方で、生活利便性の低い地域では、都市構造と人の活動が一致し、人の経路範囲を限定するといった、都市構造の違いによる歩行空間のあり方についての整備指針への課題を浮き彫りにすることができた。